

商店街の活性化も視野に入れた子育て支援の取り組み

JR三原駅前にあるいわゆるシャッター通りとなっていた商店街にて、先ずケアハウスを開設、さらにその向かいに保育園をオープンさせた。加えて、保育園の付帯事業として、「さんさんみなと地域子育て支援センター」を開設し、そこで高齢者と子どもが交流できるプログラムを実施した。これにより、商店街には子どもとその保護者からお年寄りまで、様々な世代の人が往来するようになった。世代間交流と当該商店街の活性化を実現させた。

社会福祉法人 **泰清会** 〒723-0017 広島県三原市港町1-6-6
TEL : 0848-63-0017 / FAX : 0848-63-3826

◆ 法人の概要

法人設立年：平成10年

経営施設、事業（数）：3施設13事業所

経営施設、事業（種別）：

特別養護老人ホーム（ショートステイ含む）…
1、デイサービス…2、ホームヘルパーST…
1、ケアハウス（特定施設入居者生活介護含む）
…2、居宅介護支援…4、小規模多機能型居宅
介護…1、保育園…1、地域子育て支援センタ
ー…1

◆ 法人の理念・経営方針

■法人理念

「私たち泰清会は、地域の人々の安心と、心豊かな社会の実現に貢献します」

■平成20年度 基本方針

いま、地域に必要な福祉とは何か、そこに住む人々が望むサービスとは何か…、その時、その場所、その人が必要とするものを形にできるよう、現行の制度の枠にとらわれない、独自性と先駆性の追及に常にチャレンジ（挑戦）します。

◆ 実施施設の概要

施設名：さんさんみなと保育園

施設種別：認可保育園、定員60人

活動開始年：平成20年6月

活動の頻度・時間：毎週月曜日～金曜日（年
末年始、祝日を除く）、
1日5時間

活動の対象者：就学前未就園児とその保
護者、商店街の各店舗、
地域の高齢者

活動実施の背景、実施にいたった理由

JR三原駅前にある商店街は、相次ぐ郊外型の大型ショッピングセンターの出店や、店舗の老朽化などにより、いわゆるシャッター通りとなっており、人通りも少なく、廃れていく一方であった。

平成15年、この商店街に当法人はケアハウスを開設し、また翌年には隣接地に関連機関が、内科を始めとする医療機関がテナントとして入った高齢者マンションをオープンした。さらに、平成19年には、その向かいに、整形外科やレストランなどが入ったビルが建設され、その2階に当法人が保育園をオープンさせた。これにより、商店街には子どもとその保護者からお年寄りまで様々な世代の人が往来し、賑わいを取り戻しつつあった。

しかしながら、来訪者同士の交流はなく、また、それが商店街の魅力向上に繋がっているとは言い難い状況であった。そこで、当法人では、世代間交流と当該商店街の活性化を視野に入れた、子育て支援事業に着手した。

実施内容

平成20年6月、保育園の付帯事業として、「さんさんみなと地域子育て支援センター」を、この商店街に開設した。この地域子育て支援センターでは、月曜日～金曜日の10：00～15：00には専属の2名の保育士を配置し、また11：30～15：00には保育園の園庭も開放している。子どもやその保護者同士の触れ合いの場として、また、子育てに関する相談窓口や、おむつ交換や授乳の場所となっている。

それ以外にも、火曜日と木曜日は特別なプログラムを実施している。火曜日は、「ふれあい遊び」と称し、地域の高齢者との交流の日としている。ケアハウスや高齢者マンションの入居者はもとより、地域に住まわれている高齢者が気軽に立ち寄り、子ども達と触れ合えるような場としている。月の第1・3木曜日は0歳～1歳半、第2・4木曜日は1歳半～就園前を対象とした「遊びの会」の日とし、実際に保育園で行っている遊びのプログラムを実施し、園児用プールを使用

するなど、その機能を地域に開放している。

そもそもこのセンターは、商店街の空き店舗を活用しており、各店舗のお買い得商品の掲示、商店街で行われる土曜夜市の割引券の販売などを行い、その活性化にも寄与している。

活動効果

平成20年6月にオープンしてからまだ2ヶ月足らずということもあり、具体的な数値としての効果は見られないが、6月中（開所日数…21日）は、述べ198人の利用があり（1日平均にすると約9.4人）、開始直後としては順調にコンスタントな利用者数を確保している。

園庭も、1ヶ月間で20人程度の利用があり、今後、口コミ等でさらに周知されれば、利用者数は増えてくるものと思われる。

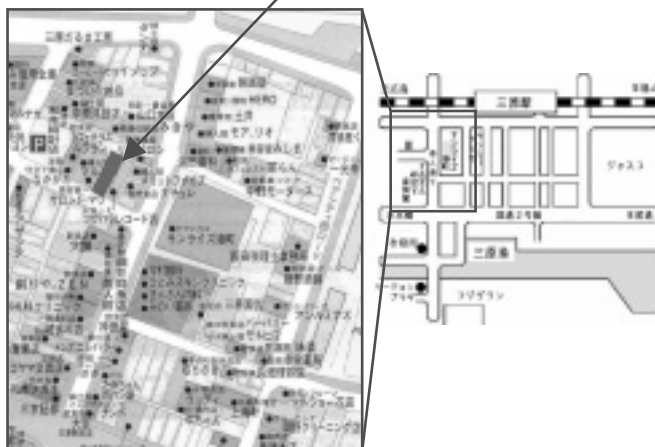
地域子育て支援センターのオープンにより、商店街を行き交う人々の数は増え、その年齢層は明らかに多様化している。また、路肩でベビーカーを押した母親同士が会話に花を咲かせている様子は、以前の商店街からは想像できない光景である。

商店街の各店舗からも、「人の流れが多くなり、賑やかになったし、お客さんも増えた。」との声が聞かれるようになった。これまで、当法人とその関連機関が展開した一連の事業を含めた商店街活性化に向けた取り組みの効果は、確実に現れている。

※この事業は、商店街活性化のために、経済産業省の中小企業活性化支援補助金（中小商業活力向上支援事業）約330万円と、三原市中心市街地活性化事業費補助金50万円により空き店舗を改修して開設したものである。また、来年度以降の運営費は、厚生労働省の次世代育成支援交付金を見込んでいる。



さんさんみなと地域子育て支援センター



今後の課題

子育て支援センターのオープンに際しては、地元ケーブルテレビや、新聞、情報紙等により、広報活動を行ったため、子どもとその保護者の利用はある程度あった。とはいえ、世代間交流という視点で見た場合、高齢者の利用が少ないうえ、利用者も向かいのケアハウスの入居者のみであることから、今後は、町内会や商栄会に回覧板をまわすなど、地元の高齢者を対象とした広報活動を強化する必要がある。

